

自然遊学館

だより

2017 WINTER

No.82



クロホシマンジュウダイの幼魚

2016年12月7日に近木川河口の汽水ワンドで初めて採集されました。大きさ全長2cmの可愛い姿でした。本来、暖海に住む魚で、大阪湾では成魚まで成長できないようです。

2017.2.6 発行 貝塚市立自然遊学館

目次

*ネイチャーレポート

クスベニヒラタカスミカメ
…………… 白木江都子・岩崎拓 …… 1

*行事レポート

虫と星の観察会 …………… 岩崎拓 …… 3
海藻おしば&ウミホタル …………… 山田浩二 …… 4

*泉州生きもの情報

泉佐野市の蓮ノ池にて2年連続オニバス出現
…………… 山田浩二 …… 6
自然遊学館裏にてイタチ類を目撃 …… 山田浩二 …… 6

*館長コーナー

海の学びミュージアムサポート事業
…………… 高橋寛幸 …… 7

*生きものがかり

遊学館で飼育している生きもの9 …… 鈴子勝也 …… 11

*調査速報

二色浜周辺の鳥調査3 …………… 鈴子勝也 …… 11
和泉葛城山昆虫調査 2016 …………… 岩崎拓 …… 12

*寄贈標本

…………… 15
*新スタッフ紹介 …………… 18
*スタッフ日誌 …………… 18



◆ ネイチャーレポート

クスベニヒラタカスミカメ

このところ、クスノキの葉が秋になると黄褐色の汚い色になることに気付いておられる方もいるかと思えます。すでにくつかの報告（文末にまとめてあります）が出ているので、その原因となっているのがクスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomi* という外来種であることを知っている方もいるでしょう。この虫がクスノキの葉から汁液を吸うと、口吻を刺した場所の周りの色が変わります（図1、2；長島ら、2016）。



図1. クスベニヒラタカスミカメ
（成虫、翅端まで7mm）
（貝塚市港、2015年11月19日）



図2. 変色したクスノキの葉
（貝塚市二色、2015年11月19日）

事の始まりは、2015年10月1日、白木が岸和田市葛城町で手に止まってきた虫を「これ何？」と自然遊学館に持ち込んだことで、それは図鑑に載っていない種でした。この個体が現在分かっているかぎりでは最初の発見となっています。大阪府大昆虫研でカメムシの分類を研究していた山田量崇さん（徳島県立博物館）に送ると、「分からないので安永智秀先生に見てもらおう」ということになりました。また、「伊丹市でも長島聖大さん（伊丹市昆虫館）が確認している」ことも教えてもらいました。

それからほぼ1年後、2016年の秋になってようやく中国原産の外来種であるという論文が発表され、上記の和名が与えられました（安永ら、2016）。その論文の中では、中国の湖南省で記載され、浙江省や上海に分布を広げていることが紹介（引用）され、上海から関西へ侵入し大発生に至ったと書かれています。

2015年は4月から毎月1回の割合で街中昆虫調査をしていて、その11月の調査で、自然遊学館がある市民の森から脇浜、南海貝塚駅下がり、北境川沿い、港の海浜緑道、二色パークタウンを通る周回コースにおいて、調べた105本すべてのクスノキで葉の変色を見つけ（図3）、うち75本で成虫か幼虫を確認しました。市民の森ではクスノキ科のタブノキも被害を受けていましたが、クスノキほど被害はひどくありませんでした（図4）。



図3. クスノキの葉の食痕
(貝塚市脇浜、2015年11月19日)



図4. タブノキの葉の食痕
(貝塚市二色、2015年11月19日)

これは大変と思い、周辺地域も調べると、貝塚市では二色・脇浜から千石荘や木積にかけて、南大阪でもほとんどの地域で見つかり、奈良県の大阪側や和歌山県北部でも確認されました。ただ、調べた範囲では南大阪の被害が一番激しく、和泉山地や金剛山地から、おそらく峠（道路）沿いに「漏れ出した」ものと推測されました。大阪市内や北大阪は調べませんでした。2015年の秋には大阪市内や伊丹市でも見つかっていました（長島ら、2016）。

2016年の春、新しく開くクスノキの葉が被害に会うのではないかと心配しました

が、そうではなく、健康な新葉を付けていたので安心しました。でも、夏から秋にかけて葉の色が汚くなってきました。それでも、脇浜では昨年より被害が少ない場所もありました。これまで完全に枯れてしまった木はありませんが（長島ら、2016 参照）、元々樹勢が弱かった幼木や低木はてっぺんに葉がなかったりして、全部が全部このカスミカメのせいではないと思いますが、枯れてしまわないか心配な木もあります。しばらくはクスノキから目が離せません。

引用・参考文献

- 奥野晴三 (2016) 大阪市西区靱公園にて美しい不明のカスミカメを採集. *かめむしニュース* (47) : 2-3.
- 奥野晴三・竹本卓哉・桂 孝次郎 (2016) クスノキに発生しているアカヒゲクビナガカスミカメ (仮称) の分布調査. *かめむしニュース* (50) : 6-7.
- 奥野晴三・竹本卓哉・桂 孝次郎 (2016) クスベニヒラタカスミカメの分布調査 (2). *かめむしニュース* (51) : 12-13.
- 桂 孝次郎 (2016) アカクビヒゲナガカスミカメの生態的知見. *かめむしニュース* (49) : 2-5. (追記)クスノキとアカヒゲクビナガカスミカメの攻防について. 同 : 6.
- 桂 孝次郎・奥野晴三 (2016) 淡路島のカスベニヒラタカスミカメ調査 (2016). *かめむしニュース* (51) : 10-11.
- 長島聖大・岩崎 拓・山田量崇 (2016) 2015年に日本へ侵入したクスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomi* の分布拡大状況. *昆虫と自然*, 51(14) : 26-29. (解像度を改善した図2-4の再掲載: 2017. *昆虫と自然*, 52(1) : 34.
- 春澤圭太郎 (2016) クスベニヒラタカスミカメの大阪府南部での分布情報. *かめむしニュース* (51) : 8.
- 安永智秀・穆 怡然・長島聖大・山田量崇・高井幹夫 (2016) 最近日本に侵入した外来カスミカメムシ: *Mansoniella cinnamomi*. *Rostria*, No. 60 : 17-20.
- 吉村俊彦 (2016) ビルの屋上にてアカヒゲクビナガカスミカメを採集. *かめむしニュース* (49) : 6.

(白木 江都子・岩崎 拓)

行事レポート

虫と星の観察会

日時：10月1日（土）18：00～20：00

場所：自然遊学館、市民の森

参加者：18人（うちスタッフ6人）

2013年から、善兵衛ランドと自然遊学館の共催で、虫と星の観察会を始めました。台風の影響でほとんど鳴く虫の音が聞こえない年もありましたが、自然遊学館が担当の今年はどうなったでしょうか。今年は7月下旬から8月上旬までほとんど雨が降らず、市民の森の草も元気がなくなり、秋に鳴く虫が現れるのか心配するほどだったのですが、秋が深まるにつれて、コオロギの仲間の鳴き声は勢いを増すばかりという感じになりました。

当日は雨の心配がなく、星を覆う雲だけが心配な状況でした。午後6時、館を出発し、市民の森に繰り出しました。さっそく、樹上からカネタタキとアオマツムシの鳴き声が聞こえました。地面からは、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、シバズズの鳴き声が出て、採集係をお願いした澤田夫妻の指導の下、子どもたちも次々とコオロギを採集していきます（図1）。中には、クビキリギス、サトクダマキモドキ、チョウセンカマキリをゲットした子どももいました。林の中から声が聞こえたツツレサセコオロギは採集が難しそうです。植栽のハマゴウの群落から鳴き声が聞こえたヒロバネカントンは姿を見ることができました。



図1. 何がとれたかな？

館に戻って、採れた虫やスライドを使って、鳴く虫の説明をした後、2階テラスに上がって空を見ましたが、この時は雲が多く、ほとんど星を見ることができませんでした。それでも、「損はさせへんでえ〜」という森哲裕館長の言葉どおり、館内で「ステラナビゲーション」というソフトを使用して、惑星、星座、星雲の形や位置から、神話との関係まで、楽しく説明をしていただきました。

最後に、もう一度、2階のテラスに出ると、雲がやや途切れて、夏の大三角を形成するベガ、デネブ、アルタイルや、その他のいくつかの星を見ることができ、行事を終えました。



図2. なんとか星が見えました

2 回目にテラスに上がる前に、館前でタンボコオロギが鳴いていましたが、一部の参加者にしか聞いてもらうことはできませんでした。澤田夫妻が行事開始前に採集してくれたものも含めて、当日の結果をまとめると、2目7科11種となりました。

バッタ目

コオロギ科

- エンマコオロギ 姿+鳴き声
- ハラオカメコオロギ 姿+鳴き声
- ツヅレサセコオロギ 鳴き声
- タンボコオロギ 鳴き声

ヒバリモドキ科

- シバズ 姿+鳴き声

マツムシ科

- アオマツムシ 鳴き声
- ヒロバネカントン 姿+鳴き声

カネタタキ科

- カネタタキ 姿+鳴き声

キリギリス科

- クビキリギス 姿

ツユムシ科

- サトクダマキモドキ 姿

カマキリ目

カマキリ科

- チョウセンカマキリ 姿

採れたものの中で、最後まで「何かな？」と考えさせられたものは、富恵皇成さんが採集した体長 22 mm のコオロギ♂でした (図 3)。頭が大きく、これまで見た記憶がないものでしたが、図鑑を見るとツヅレサセコオロギかクチナガコオロギのようです。でも顔の半分以上が大

顎というクチナガコオロギほどには大顎が長いわけではなく、「かなり大きなツヅレサセコオロギ」という同定に落ち着きました。



図 3. 大きなツヅレサセコオロギ (オス成虫、体長 22 mm)

自然遊学館が所蔵しているツヅレサセコオロギ♂の標本は体長 15 mm 前後なことから、多くの図鑑の体長に関する表記から判断すると、このツヅレサセコオロギは、最大サイズに近いのではないかと思います。

(岩崎 拓)

海藻おしば&ウミホタル

日時:2016年10月10日(月)14:00~20:30

場所:大阪府立青少年海洋センター

参加者:39人(うちスタッフ9人)

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

貝塚市役所に集合した後、貸し切りバスで岬町にある青少年海洋センターへ向かいました。到着すると、海藻おしばを御指導頂く河原美也子講師がすでにスタンバって来ていました。最初に大広間で、海

藻おしば協会の制作した「ようこそ海の森へ」のビデオを見て、海藻の海中での働きなどを学びました。

その後、横にあるクラフトルームに移動して、河原講師の指導の下、海藻おしばの制作に取り掛かりました(図1)。ハガキの上にさまざまな形、色の海藻を自由にデザインして乗せていきます。参加者の作品は蝶々や猫、フクロウなど動物をデザインしたものが、多かったような印象を持ちました(図2)。作品は講師のご自宅で乾燥、ラミネートして頂いてから、後日、参加者のもとへ郵送されました。



図1. 海藻おしば作り



図2. 海藻おしばの参加者作品例

休憩をはさんだ後は、ウミホタル(図2)の学習へ移りました。大広間でウミホタルとはどのような生きものかについて、スライドを使用して紹介しました。そして、あらかじめ準備しておいた乾燥ウミホタル

を参加者へ配り、シャーレの中ですり潰し、そこに水をたらし、室内の電気を消灯すると、青白く光るウミホタルの光を観察することができました。



図2. ウミホタル

続いて、実際にウミホタルを捕獲するためのトラップに餌をセットしてもらった後、センターから外へ出ました。夕闇のせまった海辺の砂浜を歩き、トラップを仕掛ける突堤へ到着しました。参加者にはそれぞれ突堤の自分で選んだ場所でトラップを海へと放り投げ、仕掛けてもらいました。半時間ほどの待つ間、参加者が絵を画いたプラスチックカップに砂を入れ、そこにロウソクを立て、火を灯したランタンを並べると暗闇の中の道標となりました。

そしていよいよ、トラップを引き揚げると、どのトラップにも小さなウミホタルが多数うようよと泳ぎ回っているのが見えました。透明カップに移し替え、そこに氷をいれるとその刺激で一斉に多くのウミホタルの光を見ることができました。生きたウミホタルの光量は、乾燥ウミホタルの光より何倍も明るいものでした。

(山田 浩二)

泉州生きもの情報

泉佐野市の榎ノ池にて 2年連続オニバス出現

泉佐野市南中榎井にある榎ノ池で、昨年に引き続き、今年もスイレン科のオニバスが繁茂しました。本種は環境の悪化等で自生地の消滅が相次ぎ、環境省レッドリスト、大阪府レッドリスト 2014 とともに絶滅危惧Ⅱ類に評価されています。昨年の状況については本誌のNo. 78で報告し、その中で「本種は1年草で、種子は休眠状態で数十年間は生存可能であることが知られており、今年見られたからといって、また同じ池で見られるのは何年後になるかわかりません。」と記していましたが、幸運(?)なことに今年も池一面を覆い尽くすオニバスの群生を目にすることになりました。

2016年7月14日に池をのぞいたところ、すでにオニバスの群生する葉を確認することができました(図1)。今年こそは水面に咲くオニバスの花を撮影しようと、通勤途中、毎週のように11月まで観察を続けましたが(図2、図3)、結局、花を見ることは叶いませんでした。



図1. オニバスの様子 2016年7月14日



図2. オニバスの様子 2016年9月4日



図3. オニバスの様子 2016年11月7日

(山田 浩二)

自然遊学館裏にてイタチ類を目撃

2016年10月24日午前10時前、自然遊学館の裏手の敷地内でイタチ科イタチ類を目撃し、写真に収めました(図1)。貝塚市内ではこれまでも市街地や山手でイタチ類の目撃情報や死体の拾得記録がありますが、日本に昔からいる在来種のイタチと外来種のチョウセンイタチは非常によく似ているため、判別が難しいといわれています。ただ西日本においてイタチの生

息域は、体の大きさがひと回り大きくなる
チョウセンイタチに圧迫され、山間部に限
られつつあるようです。

今回目撃したイタチ類は、「市民の森」
の遊歩道を通り抜けやって来て、自然遊学
館の裏に設置している温室の前できよろ
きよろと周りを見渡したかと思うと、また
もと来たコースを通過してさっとどこかへ
行ってしまいました。この辺りは野良猫も
多く、イタチ類と猫が出くわすと両者の力
関係はどうなんだろうと考えてしまいま
した。



図 1. 自然遊学館の裏に現れたイタチ類

(山田 浩二)

『スナメリ学習会』より

スナメリ剥製製作が順調の進む中、スナ
メリ学習会が行われました。全 6 回シリー
ズで開催され、12 月に 1 回目から 3 回目の
学習会が行われました。

第 1 回スナメリ学習会報告

日時：2016 年 12 月 3 日 (土) 14:00～15:00

会場：当館 多目的室

参加者：22 人 (館スタッフも聴講)

講師：神戸市立須磨海浜水族園学芸員

中村 清美氏

以下は第 1 回目スナメリ学習会開始直後
の様子です。



スナメリ講座開始の様子

館長コーナー

海の学びミュージアムサポート事業

海の学び今年のテーマ

- ・大阪湾を知ろう
- ・スナメリの棲む海に何が必要
- ・生きものが棲みやすい海を求めて
- ・『海をきれいにするために自分でできる
ことはなんだろう??』



参加者への問いかけでスタート



神戸市立海浜須磨水族園の紹介の様子

スナメリって何でしょう？から始まり、スナメリの特徴などを話していただきました。基本的なことをやさしく教えていただきました。また、参加者一人一人に声をかけていただきながらの講演会でした。参加者はみな満足していました。この日はケーブルテレビの取材もありました。

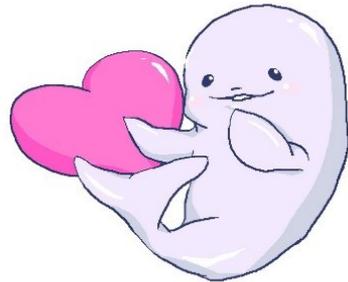
スナメリ学習会マスコット



ゆうくん



まなぶくん



メリーちゃん

スナメリのキャラクターを公募し、スナメリ学習会マスコットキャラクターが以上のように決まりました。

第2回スナメリ学習会報告

日時:2016年12月10日(土)14:00~15:00

会場:当館 多目的室

参加者:19人(講義のためスタッフも聴講)

講師:神戸市立須磨海浜水族園学芸員

中村 清美氏

1回目はスナメリの特徴を中心に話していただきました。その続編として2回目が開催されました。今回はスナメリの専門的

な部分にまで及ぶお話でした。以下は2回目学習会開始直後の様子です。



前回の話を受け2回目が始まりました



参加者との交流を中心とした講義



スナメリ調査の様子の貴重な話

2回目はスナメリの生息域やスナメリの生態など、かなり専門的な内容の講義でした。専門的な内容でしたがとても分かりやすく画像やイラストなどを使っての説明でしたので参加者は熱心に聞き入っていました。

お話しの最後には海の学びのテーマでもある「スナメリの棲みやすい海にするために何が必要?」「私たちにできることは何?」という問いかけもしていただきました。参加者からは「海をきれいにする」、「ごみを捨てない」、「棲みやすい環境を作る」などの意見が聞かれました。

第3回スナメリ学習会報告

日時:2016年12月17日(土)14:00~15:00

会場:当館 多目的室

参加者:14人

スタッフ3人

指導スタッフ3人

講師:当館職員

3回目はスナメリの骨格標本披露とスナメリ工作(スナメリカレンダー、スナメリ冠など)を行いました。以下は3回目学習会の様子です。



スナメリカレンダーづくりの様子



スナメリ冠づくりの様子



スナメリ骨格を触る冠をかぶった参加者

前回に比べ大人や高校生の参加がなく（高校生は試験期間のため）開始当初は 5 人のスタートでした。しかし、途中から 9 人の方が飛び入りで参加してくださったため、冠づくりは 14 人になりました。楽しそうに作成していました。冠とは、画用紙で作った鉢巻部分の中央に自分でスナメリの顔を描き貼りつけるというものでした。それぞれに色々なスナメリの顔が出来上がりました。

カレンダーづくりでは、お絵かき欄があったので色々な色を使ったスナメリを仕上げていました。カレンダーは家に持って帰り使いたいとのことで、掲示したのは 9

枚となりました。



掲示されたスナメリカレンダー
12月～2月分

スナメリカレンダーづくり（12月～2月まで）の後は「スナメリの骨格にさわってみよう」を行いました。『骨格にさわってみよう』の体験は、使い捨て手袋をはめての体験でした。そのせいか見るだけの家族がほとんどでした。触ることを希望したのは 1 家族でした。

この後、当館のボランティア講師の行事として、『スナメリをビーズで作ってみませんか？ビーズスナメリづくり』が行われました。ビーズスナメリ作成講座は臨時で行われましたが、興味を持ったご家族が挑戦していました。時間の都合上、多くの家族の参加はありませんでしたが、時間を大きく延長して完成させていました。

以上、平成 28 年度海の学びミュージアムサポート事業『スナメリ学習会』12 月の報告でした。この後、年が明けて平成 29 年 1 月に 4 回目と 5 回目の学習会が行われ、2 月にはまとめの報告会が行われる予定です。

（高橋 寛幸）

いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの9

暑い季節がおわり、水槽のメンテナンスをするのにもやりやすい時期に入りました。この時期になると少し生きものの量が少なくなっていますが、頑張って飼育をしていきたいと思います。今回紹介する生きものは、ドジョウとタウナギです。

ドジョウは、日本全国に分布し、川や水田や用水路などに生息しています。口の近くに5対10本の短いヒゲがあり、全体が褐色です。遊学館のドジョウは、全長12cmです。野生のドジョウは、雑食性で水生昆虫を主にたべています。遊学館では、赤虫などの動物性のエサをあげています。



遊学館で飼育しているドジョウ

次にタウナギの紹介します。本州各地に分布し、沼や水田、水路などに生息しています。

ウナギと言う名前が入っているのですがウナギの仲間ではありません。タウナギはタウナギ目タウナギ科に属します。エラ

が退化しており、水面上に空気呼吸をしに顔を出します。遊学館のタウナギは、全長40cmほどあります。野生のタウナギは、小魚や水生昆虫を食べて暮らしています。遊学館では金魚をエサとしてあげています。



遊学館で飼育しているタウナギ

(鈴子 勝也)

調査速報

貝塚市二色の浜と

近木川周辺の鳥調査 3

10月には、カモの仲間が少しずつ戻ってきて、12月頃から見られるカモの羽数が増えてきます。秋の方では、二色の浜公園周辺の野鳥は、少なかったのですが、冬になると少しずつ増えていくことが分かりました。

近木川河口周辺において2016年10月～12月に観察された鳥類

目 科 種			2016年		
			10月	11月	12月
			16日	9日	21日
			13:40	13:30	13:25
カモ目	カモ科	ヒドリガモ		○	○
		カルガモ	○	○	○
		オナガガモ		○	○
		コガモ		○	○
		ホシハジロ		○	○
		スズガモ		○	○
カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ		○	○
ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○
		ドバト	○	○	○
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○
ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○	○
		ダイサギ	○	○	○
ツル目	クイナ科	オオバン		○	○
		シギ科	ウミネコ	○	○
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ		○	○
		タカ科	トビ		○
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ		○	○
スズメ目	モズ科	モズ	○	○	○
	カラス科	ハシボソガラス	○	○	○
		ハシブトガラス			○
	シジュウカラ科	シジュウカラ	○		
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○
	メジロ科	メジロ		○	○
	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○
		ツグミ	○		
		ジョウビタキ		○	○
	ヒタキ科	イソヒヨドリ	○	○	○
	スズメ科	スズメ	○	○	○
	セキレイ科	セキレイ	○		
		ハクセキレイ	○	○	○
		セグロセキレイ	○		
	アトリ科	カワラヒワ	○		○
ホオジロ科	アオジ			○	
種数			20	27	28

二色の浜公園周辺において2016年10月～12月に観察された鳥類

目 科 種			2016年			
			10月	11月	12月	
			27日	16日	7日	
			13:30	13:00	13:30	
カモ目	カモ科	ヒドリガモ	○	○	○	
		オナガガモ	○	○	○	
		ホシハジロ		○	○	
		スズガモ		○		
		カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ		○
		ハト目	ハト科	キジバト	○	○
ドバト	○			○	○	
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	
ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○	○	
		ダイサギ	○	○	○	
		コサギ	○	○	○	
チドリ目	チドリ科	コチドリ		○		
		キアシシギ	○			
		シギ科	ハマシギ		○	
タカ目	カモメ科	ウミネコ		○	○	
		セグロカモメ		○	○	
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ		○		
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ		○	○	
スズメ目	モズ科	モズ	○	○		
	カラス科	ハシボソガラス	○	○	○	
		ハシブトガラス			○	
	ヒバリ科	ヒバリ	○	○	○	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	
	メジロ科	メジロ	○	○	○	
	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	
		ツグミ		○		
		ジョウビタキ		○	○	
	ヒタキ科	イソヒヨドリ	○	○	○	
スズメ科	スズメ	○	○	○		
セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○		
アトリ科	カワラヒワ	○	○	○		
種数			18	30	22	

調査報告

二色の浜にチョウゲンボウが来ていて、ハンティングや地面に降りて、走ったりしていました。

(鈴子 勝也)



地面を走るチョウゲンボウ

和泉葛城山昆虫調査 2016

2016年も和泉葛城山の山頂付近で4月から12月までの各月に1回ずつルートを決めて3時間程度の昆虫調査を行いました。その結果、および2008年以降の結果との比較を以下に記します。

1. 大阪府レッドリスト種

絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴ、準絶滅危惧のオオルリボシヤンマ、ミヤマアカネ、ヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミ、ヤスマツアメンボ、セダカテントウダ

マシ、シロジュウゴホシテントウ（図 1）、セダカコブヤハズカミキリ、アオバセセリ、ブナアオシャチホコ（図 2）を確認しました。ハルゼミとエゾゼミは鳴き声による確認です。この中で、シロジュウゴホシテントウは山地性で、これまで自然遊学館に記録がなかった種です（貝塚市産テントウムシ科 30 種目）。ブナを食樹とするブナアオシャチホコは、これまで夜間のライトトラップで採集された標本がありましたが、今回は、山頂の石段の上部にある小屋の窓枠に止まっていた。



図 1. シロジュウゴホシテントウ
(コウチュウ目テントウムシ科、2016. 11. 10)



図 2. ブナアオシャチホコ
(チョウ目シャチホコガ科、2016. 4. 26)

種名をざっと見て、おやっ？と思うのは、ヤスマツアメンボかもしれません（図 3）。

山頂には池はありません。いた場所は駐車場脇に出来た水たまりで、4月から6月にかけて確認されました。その水たまりには、ヒメアメンボやマメゲンゴロウも来ていました。いずれも貝塚市内での確認場所の最高標高を更新しました（標高 850m）。



図 3. ヤスマツアメンボ
(カメムシ目アメンボ科、2016. 5. 19)

昨年の速報で「2008 年以降確認されていない」と書いたカヤコオロギ（絶滅危惧 I 類）は、今年も確認できませんでした。

2. 注目種

山地性で貝塚市内での分布が山頂付近にほぼ限られるもの、大阪府レッドリストの改訂でランク外とされたものなどからリストアップしています。

2016 年調査で確認されたものは、ホソクビツユムシ（図 4）、テングアワフキ、ツノアオカメムシ、トゲカメムシ、ヒオドシチョウ、アサギマダラです。ホソクビツユムシは、7 月 14 日の調査で 30 個体ほどの鳴き声を聞き、「こんなにいたのか」と驚きました。



図4. ホソクビツユムシ
(バッタ目ツユムシ科、2016. 7. 14)



図5. タテスジゴマフカミキリ
(コウチュウ目カミキリムシ科、2016. 10. 6)

ツマジロカメムシは調査を開始した2008年から2015年まで毎年確認されてきましたが、今回初めて確認がない年となりました。これほど極端ではないですが、これまで比較的連続して確認されてきた種で、2016年の調査で確認されなかった種が多かったという印象があります(ヒメクサキリ、ニホントビナナフシ、オオトビサシガメ、トホシカメムシ、シダクロスズメバチなど)。

3. 標本がなかった種

自然遊学館に標本がなく今回初めて確認された種は、オビカワウンカ、タテスジゴマフカミキリ(図5)、オオキイロマルノミハムシ、クロベッコウハナアブ、ヨスジアカエダシヤク属の一種、プライヤエグリシヤチホコでした。

最後に、紹介した種の確認日(2016年の月/日)を示しました。日付の後の「*」印は幼虫での確認を示し、無印は成虫での確認です。

大阪府レッドリスト種

- ナキイナゴ 7/14
- オオルリボシヤンマ 9/15
- ミヤマアカネ 8/4
- ヒトコブササキリモドキ 8/4、9/15
- ハルゼミ 5/19、6/21、7/14
- エゾゼミ 7/14、8/4、9/15
- ヤスマツアメンボ 4/26、5/19、6/21
- セダカテントウダマシ 9/15
- シロジュウゴホシテントウ 11/10
- セダカコブヤハズカミキリ 8/4
- アオバセセリ 5/19
- ブナアオシヤチホコ 4/26

注目種

- ホソクビツユムシ 7/14、8/4
- テングアワフキ 7/14
- ツノアオカメムシ 6/21*
- トゲカメムシ 7/14
- ヒオドシチョウ 6/21
- アサギマダラ 9/15、10/6

標本がなかった種

- オビカワウンカ 7/14
- タテスジゴマフカミキリ 10/6
- オオキイロマルノミハムシ 9/15
- クロベッコウハナアブ 7/14
- ウスグロフトメイガ 7/14
- ヨスジアカエダシャク属の一種 7/14
- プライヤエグリシャチホコ 7/14

参考文献

- 『大阪府レッドリスト2014』（大阪府、2014）
- 『ミニガイド No.16 大阪のテントウムシ』（初宿成彦、1999）

(岩崎 拓)

 寄贈標本

<魚類>

- ◆福島秀人さんより
- コブダイ (幼魚) 生体 1
- カサゴ 生体 2
- カワハギ 生体 1
- ホシササノハベラ 生体 3
- ムラソイ 生体 2
- 泉佐野市りんくう往来北
- 2016年11月5日採集



コブダイ (幼魚)

- ◆河田航路さんより
- スミウキゴリ 2点
- ヌマチチブ 1点
- 近木川下流 2016年11月6日採集

<軟体動物>

- ◆濱谷巖さんより
- オオベソフチマルマイマイ 殻 1点
- 伊吹山 1999年9月採集
- ◆富恵皇成さんより
- クチベニマイマイ 生体 11点
- 貝塚市蕎原 2016年9月17日採集
- ◆常道武士さんより
- ウスカワマイマイ 生体 2点
- 貝塚市澤 2016年12月20日採集

<甲殻類>

- ◆奥野博文さんより
- オオヒライソガニ 生体 1点
- 貝塚人工島 2016年11月11日採集



- ◆中原光規さんより
- アメリカザリガニ 生体 4点
- 貝塚市麻生中産

<類線形動物>

- ◆常道武士さんより
- Chordodes 属のハリガネムシ 1点
- 貝塚市澤 2016年10月5日採集

<昆虫>

- ◆富恵皇成さんより
ツヅレサセコオロギ 成虫 1点
貝塚市二色 2016年10月1日採集
- ◆常道武士さんより
セグロアシナガバチ 巣1点・成虫7点
貝塚市澤 2016年10月30日採集
その他、セグロアシナガバチの古巣1点
クビキリギス(紅色型) 成虫2点
貝塚市澤 2016年10月31日採集
コカスリウスバカゲロウ 成虫1点
貝塚市澤 2016年11月3日採集
ニホンミツバチ 成虫1点
泉佐野市俵屋 2016年11月20日採集
- ◆川口博さんより
キマダラカメムシ 成虫1点
貝塚市脇浜 2016年10月31日採集
- ◆福島秀人さんより
アオスジアゲハ 幼虫1点
ツヤアオカメムシ 成虫1点
貝塚市二色 2016年11月4日採集
フクラスズメ 成虫1点
貝塚市二色 2016年11月17日採集
- ◆五藤武史さんより
クロスジホソサジヨコバイ 成虫9点
高石市高師浜 2016年11月15日(1点)、
16日(2点)、17日(2点)、18日(1点)、
19日(1点)、20日(2点)採集
- ◆森本静子さんより
コガシラミズムシ 成虫1点
ヒメコガシラミズムシ 成虫1点
貝塚市馬場 2016年11月23日採集
- ◆荒平魁人さんより
キボシアシナガバチ 巣1点
貝塚市二色 2016年11月24日採集

- ◆自然遊学館わくわくクラブより
オオカマキリ 卵囊1点
岸和田市河合町 2016年11月27日採集

<寄贈写真>

- ◆覚野良子さんより
アケボノシュスラン 1枚
テイショウソウ 2枚
ミヤマウズラ 1枚
ギンリョウソウモドキ 1枚
和泉葛城山 2016年10月2日撮影



アケボノシュスラン

和泉葛城山 2016年10月2日 覚野良子さん撮影

- ヤマミズ 1枚
アケボノソウ 3枚
ほか5枚
和泉葛城山 2016年10月7日撮影



アケボノソウ

和泉葛城山 2016年10月7日 覚野良子さん撮影

センブリ 4枚
イズミカンアオイ 2枚
フデリンドウ 1枚
ほか5枚
和泉葛城山 2016年10月15日撮影



センブリ

和泉葛城山 2016年10月15日 覚野良子さん撮影

ユキワリイチゲ 1枚
貝塚市蕎原 2016年11月3日撮影
フデリンドウ 1枚
マネキグサ 1枚
ヒナノウスツボ 2枚
ほか4枚
和泉葛城山 2016年11月3日撮影
メギ 1枚
ほか4枚
和泉葛城山 2016年11月10日撮影

覚野良子さんには、この期間中、その他、4枚の写真を寄贈していただきました。

◆喜多理恵さんより
ミサゴ 1点
ウラナミシジミ 1点
貝塚市千石荘 2016年10月14日撮影

◆五藤武史さんより
クロマダラソテツシジミ低温期型 1♂
高石市高師浜 2016年11月13日撮影
クロマダラソテツシジミ低温期型 1♀
高石市高師浜 2016年11月18日撮影

<寄贈作品>

◆青木泰彦さんより
ガシラ 1点
甲虫3種 1点



ガシラ (青木泰彦作)

◆丸山幸代さんより
二色の浜の打ち上げ貝や木の実を用いて作ったウェルカムボードを含む3点



ウェルカムボード (丸山幸代制作)

<目撃記録>

◆五藤武史さんより

クロマダラソテツシジミ 高温期型 1♀
高石市高師浜 2016年10月11日 目撃



新スタッフ紹介

山口 隼平 (やまぐち しゅんぺい)

皆さん初めまして、と言いつつ既に何かの行事や館内でお会いした方もいるかもしれません。去年の夏頃からアルバイトとしてお手伝いさせて頂いている山口隼平です。私は幼稚園の頃から貝塚市に住んでおり、中学生の頃職業体験で当館に来るなど長く自然遊学館にお世話になってきました。現在、大阪産業大学人間環境学部にも所属しており、主に森林の植生や現状について学んでいます。遊学館内では水槽掃除やデータの打ち込み等をしてはいますが、皆さんとは行事で会うことの方が多いかなと思います。まだ私自身知らないことが多いので、皆さんと一緒に生きものについて様々なことを学んでいきたいと考えています。なので不思議に感じたことなど、なんでも気軽に話しかけてくれると嬉しいです。改めてこれからもよろしくお願ひします。



スタッフ日誌

10月14日、貝塚市障害福祉課主催の「視覚障がい者のための文化教室」として、近木川河口でカニ釣りを行いました。一人一人に介助の方が連れ添って頂き、無事にカニ釣りを楽しんでもらえました。(高・山)

11月7日、浜手地区公民館利連主催で「ほの字の里」周辺散策とバーベキューを楽しむ会が行われました。ほの字を出発して里山の風景を楽しみ、箱谷林道を散策する、というコースです。この時期花はなく、サルトリイバラ、ソヨゴ、コバノガマズミなどの赤い実が美しく、箱谷林道では、多くの方がクサギの鮮やかな実にびっくりしていました。(湯・白)

11月17、18日、当館に一番近い貝塚市立第五中学校から2年生男子3名が職業体験に来てくれました。展示している生きもの世話や、自然生態園、汽水ワンドの作業に汗を流しました。昆虫にとっても興味のある子や、体力に自信のある子たちで頼もしく思えました。(一同)

11月23日、毎年恒例の和泉葛城山ブナ林観察ハイキングに参加しました。みどりのトラスト協会主催で、参加者は岸和田駅からバスで蓄原にきました。登りはAコース、下りはBコースです。山頂では豚汁がふるまわれ、田中先生からブナ林の楽しいお話や、木の実や紅葉の絵本などの紹介がありました。とても寒い日で、風邪をひいてしまいました。(湯・山)

 **お知らせ**

特別展

「2016年の自然遊学館の出来事」

期間：2017年3月1日～4月9日

場所：自然遊学館多目的室

2016年の貝塚市の動植物の記録や、自然遊学館の行事の様子を振り返ります。ついに出来上がってきたスナメリの剥製も展示します。火曜日休館、入館無料です。皆さまのお越しをお待ちしています。

特別展 「2016年の自然遊学館の出来事

～ 1年の始まりはスナメリの漂着からでした ～



場所：貝塚市立自然遊学館多目的室
期間：2017年3月1日(水)～4月9日(日)

貝塚市二色3丁目26-1 水鉄バス「市民の森」バス停下車徒歩1分
Tel. 072-431-8457 火曜日は休館日です。ご注意ください。

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、
下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2017 冬号 (No. 82)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2017.2.6

この小冊子は庁内印刷で作成しています。